

# バリに流れるもの

text by Shinji Ishii  
文いししんじ

夕暮れの宮廷。外国人のざわめきの上に、やにわに降り注ぐ、ガムランの金属音。空間がいきなり、ぐにやりと曲がる。ひとがひとで、なくなっていく。虫か、鳥か。ひとの歴史の前に属するものか。あるいは、千年、万年後に生きる、未来の人間たちか。

バリの音楽は、「いま」を溶かす。京都や東京に、ガムランのグループや舞踊団がやってきたとき、間近で見聞きし、そのようなものだとして理解しているつもりだった。浅はかの極みだった。バリ島の空気のなかで浴びるバリの音楽は、「いま」を「世界」を、「ぼく」を溶かした。引き裂き、混ぜ、「あたらしいもの」とした。

日本へ帰ってきたいまも、ぼくのからだのある部分は、バリの宮廷劇場の、崩れかけた壁の上に浮かび、ガムランに合わせふわふわと揺れている。耳の奥では打楽器のリズムが

ヤンさんはくりかえし強調していた。「空気や花を、わたしたちを、水はいつもきれいに保ち、あたらしくしてくれます」と。

ジャングルの谷のいちばん底には、バリの神話で最初に語られる川が流れている。神様と悪魔が戦い、破れた悪魔のからだから流れた血が谷間を伝い川となった。谷が深すぎて、川辺までおりていったものは誰もいない、というが、ただ、そこにある流れのかたちまで感じ取れるのは、谷の上まで、まるでオーケストラのように多層に折り重なった水音が、ありありと響いてくるからだ。

棚田の上と下に、澄んだ水が行きかう。海辺でははるか別の国からやってきた波が、くりかえし、くりかえし、バリ島の輪郭を揺らせる。そして夕立。緑がかつた銀色の線が、まっすぐに降る。まるで天と地が無数の水の糸でつながれているように。

ふりかえってみると、バリの土地と時間はほとんど水中にある。そして、なかはたえない音、うたにあふれかえっている。すべては、流れていく途上にある。ひとと生きものも植物も。建物も山も空も森も。

喧噪に巻かれながら、市場通りを歩く。車道には川のうねりのように無数のバイクが流

鼓動よりはっきりと渦巻いている。

ガムランの演奏にかぎらず、バリではあらゆるものが音楽を奏でている。

まだ明けきらない朝、浅い地鳴りのような音でめざめる。耳ではまだきこえない。が、からだでは感じる。ベッドからおり、コテージの外に歩み出る。すみれ色の空気の底で、眠たげにまばたきするよりもたち。意志とはかわりなく足が動き、森のほうへ、森のほうへ、ぼくは導かれてゆく。

気がつけば、宙に浮いている。青い空を踏んでぼくは、ジャングルの上でゆっくりと足をかき、前へ前へとすすんでいく。鳥たちが祝福のさえずりをおくってよこす。樹冠のどこから猿たちが見あげて吠えている。風もなく、森の吐息のように朝霧がたち、ゆっくりと空の高みへのぼっていく。

そうしてぼくは、ようやく気づく。さっき来ていく。ノーヘル、ふたり乗り、こどもを前に座らせての三人乗りはざら。慣れた家族なら軽々と四人まではオッケイ。「ほら」

ワヤンさんが指さす。正装の少女たちが三人、めいめいお供えの花を胸の前にもって、路地の奥へはいつていく。最後のひとりが笑いかけてくれて、気がつけば同じ路地にはいり、ほこらの前でひざまづいて、三人のうしろで折っていた。まずは、神様への自己紹介。つづいて太陽神への祈り。

さっきの少女が聖水を手につけ、ほこらと地面に、ぱつ、ぱつ、と雫をちらす。ひとりめの少女、ふたりめの少女、そして自分の頭

からずつと、森が鳴っていた。浅い地鳴りのような森のふるえに、目ざめる前からつまれていたと。

(これは夢ではない。「星のやパリ」では、宿泊者が朝、うたう森の上に浮かび、朝霧とともに空へのぼっていきけるよう、施設を作っている。いや、作っている、というよりも、バリという土地が設計者をそのように導いた。だから、ひよつとすると夢なのかもしれない。土地と空、鳥とひと、ぼくと世界の溶けたところに流れる夢なのかも)

そしてまた、あらゆるところに水音が響いている。

ヒンドゥーの寺院にはこんこんと、聖なる水が湧きでている。来訪者は服を脱ぎ、ふだんの自分をも脱いで腰まで水につかり、石の隙間から流れでる聖なる水の下でこうべを垂れる。「水が浄化するのです」と、ガイドのワ

と口にも。そうしてぼくに向きなおり、さつと手を一閃した。手を合わせたまま目を閉じると、額に水滴がふりかかった。いま目をあけたら、夢のように、音楽のように、すべてが流れ去っているにちがいない、そうおもって、少女たちが立ち去るまで、バリの路地にひざまづいたままじっと目をとじていた。



## インドネシア共和国

面積: 約189万km<sup>2</sup>(日本の約5倍)  
人口: 約2.55億人(2015年インドネシア政府統計)  
都: ジャカルタ 人口1,017万人  
(2015年インドネシア政府統計)  
民族: 大半がマレー系(ジャワ、スマタラ等約300種族)  
宗教: イスラム教87.21%、キリスト教9.87%、ヒンズー教1.69%、仏教0.72%、儒教0.05%、その他0.50% (2013年宗教省統計)



### Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツエ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃない!」「遠い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。